

## ラウンドテーブル #2

タチビ祭では油絵科は普段制作しているアトリエを会場に展覧会を行う予定です。油絵科では展示を意識した取り組みとしてそれぞれがどのように表現を行っていきたいかを対話形式で話し合う場を設けています。今回は過去に行われたタチビ祭のアーカイブを閲覧しながら、それぞれが興味のあること、どのように自分は展示したいかなどをおおまかな話し合いを行い、直近で制作した油彩作品を実際に一階エントランスに飾る演習を行いました。第二回となる7/13(土)では、1学期最終課題の講評会の後に開催いたしました。



昼間部Hさんは支持体に興味を持ち始めているようです。普段は油絵の場合、下地処理がすでに行われている市販の画布（麻布）を木枠に張り、それに表現をしているが別の素材に描いてみたらどうなるのだろうという興味を抱いています。繋ぎ合わせたものを木枠に張る案など講師から出ました。素材も油絵以外のものを扱うこともあるかもしれません。同じく昼間部O君は題材・サイズも決まってきたようです。西洋の宗教画に着目し、それを自分なりに創造しながら構成する絵画を大きな画面で検討しています。西洋の文脈と本人の理想がどのように合わさるのでしょうか。また、展示方法も大きな作品をより神聖に見せるために展示壁面の上部に設置してみたいという具体的なビジョンがあります。推薦入試を希望している夜間部のIさんは今回初めてラウンドテーブルに参加しました。1学期は自由制作課題を夏前に行い、自身の考えを見つめる期間が他の一般入試の学生より多かったので、まだ何を描くかは決まっていますが、世界の在り方を模索しているような話をしてくれました。講師からはドイツの哲学者ハイデガーや、量子論のシュレーディンガーの猫などを知ってみてはという話もあり、絵を表現する上で思考を巡らすことや一生懸命筆を動かす以外にも、物事をよく観察したり書物によるインプットで思想を深めたりすることも行いながら進めると良いです。

他にも、最近気になる作家がいてその作家がどのような考えを持って制作しているのか調べようという人もいました。また、継続してきたことのみでの制作ではなく新たな表現にチャレンジしてみたい衝動が強くなってきたという人や、オープンキャンパスや美術館鑑賞によって感化されているといった話題もありました。まだまだ大いに発展する可能性を秘めた制作者たちなので、影響や感化はたっぷり必要です。その中で今の自分を作品にして展示を成り立たせることを目指していきましょう。夏期講習会での成長を経て、次回は二学期が開始される9月上旬にラウンドテーブルを行います。

